



TITLE:

低温における強磁性マグノンの運動学理論(金沢大学 理学部 物理学教室,修士論文アブストラクト 1978年度)

AUTHOR(S):

相模, 豊

CITATION:

相模, 豊. 低温における強磁性マグノンの運動学理論(金沢大学 理学部 物理学教室,修士論文アブストラクト 1978年度). 物性研究 1979, 32(3): 217-217

ISSUE DATE:

1979-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89829>

RIGHT:

方法で、5' AMP, 2' AMPが最大 0.025 %の収率で生成することを確認した。しかし、3' AMPは検出されなかった。

気体分子の Raman 散乱強度の測定

武 田 次 正

われわれは、Y. Kato and H. Fakumaの液体ベンゼンにおける振動 Raman 散乱強度の結果を強度の標として用いて、気体分子 O_2 の振動回転 Raman 散乱強度の測定を試みた。He-Cd laser (4415.70 Å)を光源として、three mirror cell を内部 cell として用いた。

低温における強磁性マグノンの運動学理論

相 模 豊

今まで、マグノン第2音波の分散関係はボルツマン方程式を現象論的に導入することで求められていた。この導入のミクロな裏づけと、より厳密な第2音波成立条件を導く為、交換相互作用・双極子相互作用に限れる温度領域で、2時間グリーン関数による一般化されたボルツマン方程式から、より正確な分散関係、第2音波成立条件、緩和時間を得た。

相対論的エネルギーの回転電子ビームに関する実験

藤 井 隆 広